



NPO法人流域環境保全ネットワーク(流域ネット)の取り組みについて

流域ネットは、淡水魚類の関わる流域環境の保全を目的に、主に若手の淡水魚類の生態や分類の研究者を中心に会員が集まりました。現在、地元の住民や企業、および河川工学や農村工学などの様々な専門分野の研究者と協働で、主に調査研究・普及啓発活動を行っています。

調査研究では、環境省中部地方環境事務所から委託を受けて、国内希少野生動物で、天然記念物でもあるコイ科タナゴ亜科の淡水魚であるイタセンバラの濃尾平野における生息状況を調べています。また岐阜県の揖斐川水系の輪中の農業用水路では、メダカやドジョウなどの淡水魚類の分布、成長や繁殖などの生活史の実態を調べています。また、三重県では、ため池にすむ淡水魚類のカワバタモロコヤイチモンジタナゴの調査、普及啓発、環境復元活動を行っています。これらの調査で得られた成果は、学会やシンポジウムおよび論文などで積極的に発表しています。

その成果から得られた科学的な根拠に基づいて保全の施策を地域住民や行政に提案しています。さらに、地域住民や行政と協働して環境教育・合意形成・保全・復元活動を進めることにより、文化的な側面からも、地域社会の活性化と健全な自然観の育成を目指しています。

これらの活動を通じて、淡水魚類が関わる流域環境、ひいてはあらゆる自然環境の本質的な保全に寄与できると私たちは信じて活動しています。



濃尾平野におけるイタセンバラの生息状況調査の様子



揖斐川水系の輪中の農業用水路調査の様子

NPO法人仕事工房ポポロ



身近なところでのリサイクルと若者などの就労支援

家庭から発生する生ごみを資源化して地域で循環利用するための事業とアルミ付紙パックの回収事業をニート・ひきこもりなど生き方・働き方・人間関係に悩む若者などと共に実施しました。*

家庭から出る生ごみを資源化するためにピートモスともみ殻くん炭を利用したダンボールコンポスト講座の開催(22回開催182人参加)、ダンボールコンポストでできた堆肥の利用の仕方やダンボールコンポスト以外の堆肥作りの方法を説明する菜園講座(2回開催48人参加)の他、生ごみの地域循環を確立するために利用されていない農地を利用した有機野菜の栽培を行い、様々な野菜を収穫することが出来とても好評でした。



ダンボールコンポストで出来た堆肥を利用した有機野菜の栽培

アルミ付紙パック回収では、BOXを設置し定期的に回収しました(8ヶ月で430.4kg回収)。また、環境イベントでの啓発活動として紙パックを利用した紙すき体験(参加者350人)や回収体験(参加者670人)を行いました。



ダンボールコンポスト講座の開催

この事業の実施により、生ごみの資源化に高い関心が寄せられ、地域循環の出口として野菜栽培にも成果がありました。また、アルミ付紙パック回収では身近な場所へのBOXの設置などの要望があり、啓発活動に成果がありました。今後は若者などの就労支援につながらると共に、リサイクル品や有機野菜栽培などを通じて身近に循環型社会を感じられる取り組みに発展させていけると良いです。

ブログ更新中!「身近なところから環境を考えよう」

<http://blog.goo.ne.jp/poporo2010eco0714>

※ 平成22年度環境省循環型社会地域支援事業に採択